

## 「コアラのハッピーおこづかいすごろく」を使う保護者の方へ

山梨大学大学院 准教授 神山久美

### <教材の特徴>

平成 24 年に「消費者教育の推進に関する法律」が施行されました。家庭や学校等の様々な場における消費者教育の充実が求められています。

このすごろく教材は、子どもがお金の上手な使い方を学ぶことを目的として作成しました。このすごろくでは、おこづかいを「ひつようなもの」、「ほしいもの」、「ちょきん」の 3 つに分けて、子どもがおこづかいを計画的に楽しく使う体験ができます。使用するお金は 100 円のみのため、5・6 歳頃から遊ぶことができます。

おこづかい日が 2 回あり、毎回 500 円をもらいます。「スタート」のマスには「次のおこづかい日までに、えんぴつ 100 円を『ひつようなもの』として買う」と書いてあります。子どもはそれを理解した上で、「3 つのビンのシート」を使って、おこづかいを 3 つに分けます。そして、「ひつようなもの」に入れたお金でえんぴつを買い、「ほしいもの」に入れたお金を使い、「ハッピーしょうてん」で好きな商品を買うことができます。また、お金を他の人のために使うこと（「赤いはね」や「友だちの誕生日」のマスがあります）についても、考えることができます。子どもはこのすごろくを通して、お金を上手に使うにはどのようにすればよいか、体験的に学ぶことができます。

この教材を活用して子どもに上手なお金の使い方について理解させた後で、保護者の方が子どもの様子を見ながら、実際に子どもに一定額のおこづかいを与えて、家庭でお金の使い方を学習させていくことが望ましいです。

### <子どもと一緒に遊ぶときの留意点>

保護者の方は、すごろくの使い方の説明書（「コアラのハッピーおこづかいすごろくについて」）を、あらかじめ読んでおいて下さい。

最初は、子どものみで遊ばせるのではなく、保護者の方が入ってお金のやりとりをする役割をしながら、すごろくシートのマスに書いてある文章を子どもと一緒に読んで、子どもの年齢に応じた簡単な説明を加えるようにすると、子どもの理解が深まります。

おこづかい日には、おこづかい 500 円を 3 つに分けますが、どのように分けるかは子どもにまかせてください。このすごろくでは、「ひつようなもの」のお金が足りないときは、「1 回休み」になります。また、残りのお金をすべて「ちょきん」に入れてしまうと、楽しい買い物ができなくなります。「ほしいもの」のお金が足りなければ、我慢をすることになります。子どもは「ほしいもの」に入れたお金の範囲内で、ほしい商品を買うことを理解することができます。

また、他の人のためにお金を使う（「赤いはね」や「友だちの誕生日」）体験もできます。「赤いはね」の説明は、下記を参照して下さい。「友だちの誕生日」では、右隣の人に、「ちよきん」のお金からプレゼントを買うこととなりますが、その人の喜びそうな商品を「ハッピーしょうてん」から選んでプレゼントすることは、子どもにとってうれしいことです。社会のためや他の人のためにお金を使うことについて、子どもと話すきっかけになればと思います。

#### ※「赤いはね」について

都道府県ごとに行われる「赤い羽根共同募金」は、地域の福祉活動を支援しています。集まったお金は、お年寄りや体の不自由な人など、助けを必要としている人のために役立ちます。例えば、「盲導犬」を育てたり「車いす」を購入したりする費用として活用されています。

子どもが最初のおこづかいの使い方を失敗したとしても、このすぐろくではあともう1回、おこづかい日がありますので、そこでもう1度計画を立てておこづかいの使い方について考えていくことができます。お金の使い方について、子どもが自分自身で考えて決定していくこと（意思決定）が大切です。このすぐろくで何回か繰り返して遊ぶと、子どもは自然にお金の計画的な使い方を理解していきます。

このすぐろくは、早く上がることが目的ではなく、おこづかいの使い方については、子どもの個性に応じた様々な使い方があってよいと思います。つまりこのすぐろくでは、「勝ち負け」や子どもそれぞれのお金の使い方についての「正解・不正解」はありません。ゴールについたら、どのようにお金を使ったか、親子で楽しく話をしてみましょう。

日常生活の中でも、お金の使い方や商品・サービスの選び方などについて子どもと話し、一緒に考えていく機会をつくるのが大切です。

#### <教材作成を終えて>

このすぐろく教材は、名古屋女子大学の授業「ファイナンシャル・プランニング演習」の履修学生と一緒に作成したものです。このすぐろくを使って、名古屋市消費生活フェアや地域の児童館で、大学生が子どもたちと楽しく遊ぶことができました。また、作成した教材を効果的に利用するための本文（「コアラのハッピーおこづかいすぐろく」を使う保護者の方へ）は、山梨大学の授業「家庭経営学概論」の履修学生（教員志望学生や現職教員）と一緒に作成しました。若い大学生の新鮮なアイデアや意見を取り入れた、子ども向けの楽しい教材ができたと思います。どうぞご家庭や学校でご活用下さい。